

数理科学専修

基本理念

数理科学の理念は時代を超えて不変である。それは数学の探求に加え、諸科学の現象を数理的観点から解析し、現象の奥にひそむメカニズムを発見することである。その過程で現象を支配する本質的な数学が発見できれば、現象の真の理解に近づくことになる。その理解は数学の普遍性を通して柔軟な応用を導出し、さらにより広範な現象の理解に資する。この理念に基づく数理科学専修の教育研究目的は、現象の数理モデル化とその解析を通して本質的な数学構造を発見し、その構造を解析すること、またそれらを遂行する能力を有する人材を育成することである。

数理科学専修

学問分野 基礎数理分野と応用数理分野に大別され、高度に抽象化された数学理論から諸科学への応用に直結する分野までをカバーする。本専修では、

代数学・幾何学・数理解析・確率論・統計科学・離散数学・計算数学

を核とする。主専門としては、代数学・幾何学・数理解析・確率論・離散数学からなる「数学」と統計科学・確率論・離散数学・計算数学からなる「統計学」を設ける。主専門科目を通して、「数学」あるいは「統計学」の一方の分野に深く精通した人材あるいは一方を主専門、他方を副専門として両分野を活用できる人材の育成を目指す。このため、カリキュラムは2年間を単位として構成する。また理工学部数理科学科での教育との連携をはかり、副専門科目に数理科学科の科目も組み込む。